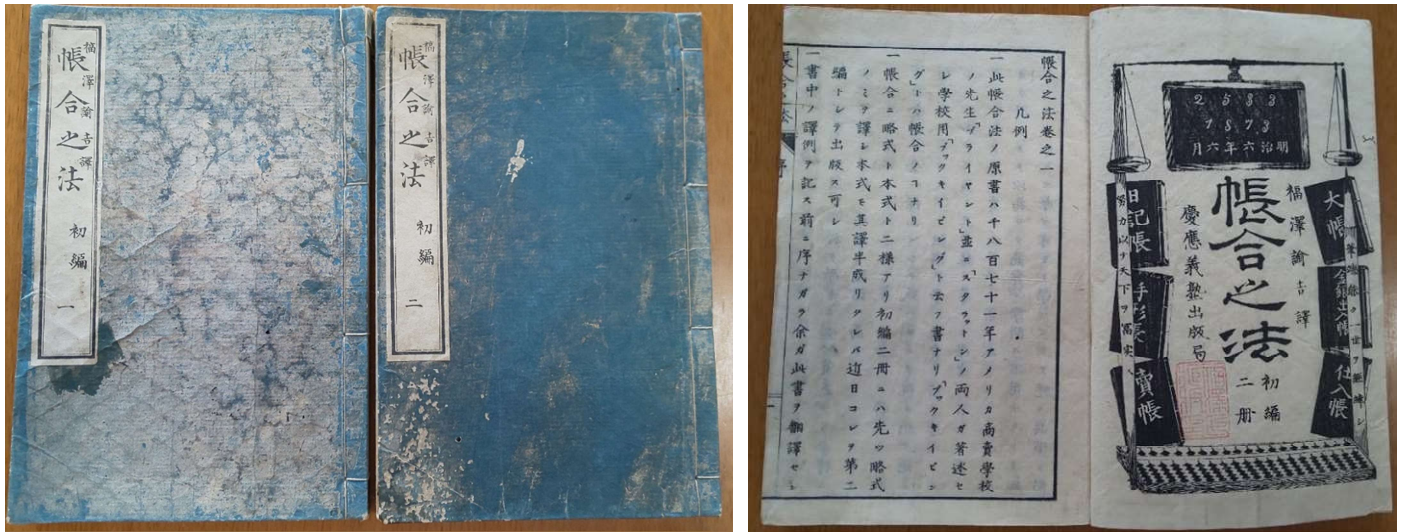


Y校アーカイブ vol. 2 「帳合之法」

『帳合之法』は、福沢諭吉が日本で初めて西洋の簿記を翻訳し、紹介した本です。日本で長く使われていた「大福帳」に代わるものとして、明治6年6月に作られました。商売に役立つ実学の学問書となるよう、西洋式の金銭の授受取引や、会計の法を授けています。慶應義塾に学んだ初代校長の美澤先生や当時の先生方が、この本を使ってかつてのY校生に簿記の原型を教えていたのでしょうか。



本校にある『帳合之法』は「初編一」と「初編二」の二冊です。和綴じの本をめくると、大きく書かれた『帳合之法』の両脇に「福沢諭吉譚 慶應義塾出版局」とあり、その左右には「筆端能ク一世を経緯シ 努力以テ天下ヲ富実ス」と記されています。また上には天秤ばかり、下のほうにはそろばんが描かれています。このそろばん、みなさんが使っているものとはちょっと違っているところがあるのがわかりますか？どこが違うのかというと……。



そろばんの下の珠が5段になっています。